

劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

成果報告書

(平成30～令和2年度 3か年分)

団 体 名	公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
施 設 名	彩の国さいたま芸術劇場
助 成 対 象 活 動 名	蜷川レガシーの継承と芸術文化による地域づくり・社会包摂機能の強化
助 成 期 間	3 (年間)
内 定 額	平成30年度 59,973 平成31年度 55,424 令和2年度 55,886 (千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名） 蜷川レガシーの継承と芸術文化による地域づくり・社会包摂機能の強化

アウトカム

人々の心豊かな生活の実現
地域の活性化とコミュニティの強化・再生

芸術文化の水準向上
芸術文化の裾野の拡大

アウトプット

- ・多様な人々が芸術文化活動へ参加できる
機会の創出
- ・芸術文化による東京2020オリンピック・パラ
림픽競技大会への機運の醸成
- ・埼玉県の魅力創造と発信
- ・首都圏をはじめ全国から鑑賞者が来場
- ・地域における芸術文化の鑑賞者の増加
- ・芸術文化の担い手の増加
- ・生き生きと暮らす高齢者（＝アクティブ
シニア）の増加
- ・子どもの頃から良質な芸術文化体験がで
きる機会の増加

活動

公演

我が国トップレベルの舞
台芸術の創造・発信／我
が国の舞台芸術の水準向
上
・彩の国シェイクスピア・シリーズ
・海外招へいダンス公演
・バッハ・コレギウム・
ジャパン

新しい演劇への挑戦
・さいたまゴールド・シ
アター

観客の育成・創造
・コンドルズ
・彩の国さいたま芸術劇
場シリーズ企画「次代へ
伝えたい名曲」

人材養成

次代を担うアーティスト、
将来の芸術文化を担う人
材の育成
・さいたまネクスト・シ
アター
人材育成事業（埼玉ダン
ス・シアター・プロジェ
クト（仮））
・ピアノ・エトワール・
シリーズ
・彩の国さいたま寄席～
四季彩亭
・舞台技術講座
・大学等との連携

普及啓発

アウトリーチ
・MEET THE MUSIC
・MEET THE DANCE

パイプオルガンをつかつ
た教養プログラム
・みんなのオルガン講座
・大塚直哉レクチャー・
コンサート&オルガン・
レクチャー（演奏付）

親子で参加できる親しみ
やすい芸術体験プログラ
ム
・光の庭プロムナード・
コンサート
・日本昔ばなしのダンス
・児童演劇公演

社会包摂

シニア世代のための芸術
文化活動と交流の場の提
供
・ゴールド・アーツ・ク
ラブ

高齢者による舞台芸術表
現の可能性を追求する
・世界ゴールド祭

インプット

《蜷川レガシーの継承》

公共劇場ならではの意欲的な取り組み（彩の国シェイクスピア・シリーズ、さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアター）

地域に開かれた劇場

挑戦する精神

自主制作のノウハウ（技術・制作）

《健全な経営体制》

収支の安定化

職員・劇場スタッフの育成

安定した雇用体制

適切な保守点検と安全管理

(2) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	彩の国シェイクスピア・シリーズ第36弾『ジョン王』	令和2年6月8日(金) ～6月28日(日)(中止)	新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止	目標値	15,752
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	-※
2	さいたまゴールド・シアター 第8回公演『聖地』	令和2年2月11日(木・祝) ～21日(日)(中止)	新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止	目標値	2,128
		彩の国さいたま芸術劇場 小ホール		実績値	-※
3	コンドルズ埼玉新作ビデオダンス2020『I Want To Hold Your Hand』	令和2年5月30日(土) ～6月8日(月)※	[出演者]コンドルズ(15名) [スタッフ]総監督・演出・振付:近藤良平 他	目標値	1,711
		オンライン		実績値	-※
4	メリル・タンカード&ナタリア・オシポワ『Two Feet』	令和2年9月10日(木) ～13日(日)(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止	目標値	2,281
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	-※
5	フランソワ・シェニヨー&ニノ・レーネ『不確かなロマンスーもう一人のオーランドー』	令和2年12月19日(土)※	[出演者・スタッフ等]音楽デザイン・音楽監督・演出:ニノ・レーネ コンセプト・振付・ダンス・歌唱:フランソワ・シェニヨー 他	目標値	1,112
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	573※
6	バッハ・コレギウム・ジャパン ベートーヴェン生誕250周年記念「運命」とハ長調ミサ曲	令和2年11月29日(日)	[出演者]指揮:鈴木雅明、ソプラノ:中江早希、アルト:布施奈緒子、テノール:櫻田亮、バス:加来徹、バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱&管弦楽)	目標値	513
		彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール		実績値	400
7	Kronos Quartet『A Thousand Thoughts』	令和2年10月2日(金)(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止	目標値	553
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	-※
8	人材育成事業(さいたまダンス・ラボラトリVol.3)	令和3年3月9日(火) ～21日(日)	講師:湯浅永麻、小夙健太	目標値	20
		彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 他		実績値	23
9	彩の国さいたま寄席～四季彩亭	令和2年10月31日(土)、 令和3年1月16日(土)※	[出演者]三遊亭鬼丸、三増紋之助(曲独楽・ゲスト)、林家けい木 他	目標値	1,100
		彩の国さいたま芸術劇場 小ホール		実績値	282※
10	ピアノ・エトワール・シリーズ(Vol.39～41)	令和2年11月3日(火・祝)、 令和3年2月26日(金)※	[出演者(Vol.39)]藤田真央 [出演者(Vol.40)]川口成彦	目標値	1,413
		彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール		実績値	967※
11	舞台技術講座	令和2年8月～令和3年3月(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止	目標値	200
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 他		実績値	-※
12	大学等との連携(埼玉大学アートマネジメント講座/大学生インターンシップ/放送大学面接授業/東北大学共同研究)	通年(一部中止)※	講師:当財団職員	目標値	800
		埼玉大学他		実績値	28※

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
13	MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！	令和2年10月19日(月) ～令和3年2月22日(月) ※	[出演者]木管五重奏アンサンブル・ミクスト 他	目標値	300
		県内小中学校		実績値	276※
14	光の庭プロムナード・コンサート	令和2年9月5日(土) ～令和3年3月13日(土) ※	[出演者]大塚直哉(オルガン)、永瀬拓輝(バロック・チェロ) 他	目標値	1,600
		彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 他		実績値	595※
15	みんなのオルガン講座	令和2年7月26日(日) ～令和3年2月7日(日) ※	講師：大塚直哉、大木麻理	目標値	80
		彩の国さいたま芸術劇場 大練習室 他		実績値	71
16	大塚直哉レクチャー・コンサート	令和2年7月5日(日)、 令和3年2月14日(日)	[出演者]大塚直哉(オルガン、チェンバロ、お話)、加藤浩子(音楽評論家) 他	目標値	806
		彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール		実績値	521
17	MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！	令和2年10月12日(月) ～12月24日(木)※	講師：藤田善宏、川合ロン	目標値	350
		県内小中学校		実績値	212※
18	藤田貴大新作児童劇	令和2年11月22日(日) ～29日(日)※	[出演者]伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子 [スタッフ]作・演出：藤田貴大 音楽：原田郁子 衣装：suzuki takayuki 他	目標値	720
		彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)		実績値	524※
19	劇場見学ツアー	令和2年7月26日(日) ～8月30日(日)※	[出演者]鈴木真之介、高橋英希(さいたまネクスト・シアター)、清水初海(ピアノ)、赤澤凜太郎(ギター)	目標値	360
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 他		実績値	174※
20	バリアフリーセミナー	令和3年2月(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により 開催中止	目標値	120
		彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール		実績値	-※
21	ゴールド・アーツ・クラブ	令和2年8月29日(土) ～9月6日(日)(中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により 開催中止	目標値	600
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	-※
22	世界ゴールド祭2020	令和2年8月27日(木) ～9月20日(日)(中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により 開催中止	目標値	2,600
		彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 他		実績値	-※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	彩の国シェイクスピア・シリーズ第35弾『ヘンリー八世』	令和2年2月13日(木) ～2月27日(木)	[出演者]阿部寛、吉田鋼太郎 他 [スタッフ]演出:吉田鋼太郎 作:W. シェイクスピア 翻訳:松岡和子 他 ※新型コロナウイルスの影響により2月28日(金)～3月1日(日)は公演中止	目標値	12,688
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	10,450
2	さいたまゴールド・シアター×さいたまネクスト・シアター『蝸の綿 -Nina's Cotton-』リーディング公演	平成31年10月13日(日) ～15日(火)	[出演者]さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアター [スタッフ]作:藤田貴大 演出:井上尊晶 他	目標値	1,380
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	1,225
3	彩の国さいたま芸術劇場×マームとジプシー『CITY』	平成31年5月18日(土) ～26日(日)	[出演者]柳楽優弥 他 [スタッフ]作・演出:藤田貴大 他	目標値	4,320
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	5,682
4	コンドルズ埼玉公演 2019 新作	平成31年5月11日(土)・ 12日(日)	[出演者]コンドルズ(16人) [スタッフ]構成・映像・振付:近藤良平 他	目標値	1,711
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	1,857
5	ディミトリス・パパイオアヌー『Great Tamer』	平成31年6月28日(金) ～30日(日)	[出演者]パヴリナ・アンドリオブル 他 [スタッフ]コンセプト・ビジュアル・演出:ディミトリス・パパイオアヌー 他	目標値	1,140
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	2,195
6	バットシェバ舞踊団『VENEZUELA』	-	新型コロナウイルスの影響により公演中止	目標値	1,711
		-		実績値	-
7	バッハ・コレギウム・ジャパン J.S.バッハ《マタイ受難曲》	平成31年4月13日(土)	[出演者]鈴木雅明(指揮)、キャロリン・サン普森、松井亜希(ソプラノ)、ダミアン・ギヨン、クリント・ファン・デア・リンデ(アルト)、櫻田亮(テノール:福音史家)、谷口洋介(テノール)、クリスティアン・イムラー、加来徹(バス)、バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱&管弦楽)	目標値	513
		彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール		実績値	563
8	さいたまネクスト・シアター	平成31年7月18日(木) ～28日(日)	[出演者]さいたまネクスト・シアター 他 [スタッフ]作:ガンナーン・ガンナーン 翻訳:渡辺真帆 演出:真鍋卓嗣 他	目標値	1,300
		彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)		実績値	1,119
9	人材育成事業	平成31年8月17日(土) ～31日(土)	講師:湯浅永麻、小夙健太	目標値	20
		彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)		実績値	22
10	彩の国さいたま寄席～四季彩亭	平成31年4月27日(土) 他	[出演者]古今亭志ん輔(ゲスト)、三遊亭鬼丸、林家つる子、立川吉笑、柳亭市若 他	目標値	1,100
		彩の国さいたま芸術劇場 小ホール		実績値	1,260
11	ピアノ・エトワール・シリーズ	平成31年6月16日(日) 他	[出演者(アンコール! Vol. 8)] 萩原麻未 [出演者(Vol. 37)] アルトゥール&ルーカス・ユッセン [出演者(Vol. 38)] 新型コロナウイルスの影響により公演中止	目標値	1,413
		彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール		実績値	1,083

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
12	舞台技術講座	平成31年8月7日(水) ～令和2年2月7日(金)	講師：当劇場技術スタッフおよび外部講師 ※新型コロナウイルスの影響により劇場・音楽堂等職員対象分は中止	目標値	200
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 他		実績値	58
13	大学等との連携(インターンシップ、講師派遣)	通年	講師：当財団職員	目標値	40
		彩の国さいたま芸術劇場 他		実績値	66
14	MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる!	平成31年9月6日(金)～ 令和2年1月17日(金)	[出演者]金管五重奏 他 ※台風および新型コロナウイルスの影響により鶴ヶ島市立西中学校開催分は中止	目標値	300
		鳩山町立亀井小学校 他		実績値	255
15	光の庭プロムナード・コンサート	平成31年4月20日(土) ～12月21日(土)	[出演者]長谷川美保(オルガン)&座古瑞穂(和太鼓) 他 ※新型コロナウイルスの影響により第113回公演は中止	目標値	1,600
		彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ		実績値	1,910
16	みんなのオルガン講座	平成31年9月1日(日) ～令和2年2月23日(日)	講師：大塚直哉、大木麻理	目標値	80
		彩の国さいたま芸術劇場 大練習室 他		実績値	118
17	大塚直哉レクチャー・コンサート	平成31年7月7日(日)・ 令和2年2月2日(日)	[出演者]大塚直哉(オルガン、チェンバロ、お話)、若松夏美(バロック・ヴァイオリン)	目標値	786
		彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール		実績値	639
18	MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる!	平成31年9月9日(月) ～令和2年2月21日(金)	講師：山田うん、川合ロン、藤田善宏	目標値	350
		吉川市立中央中学校 他		実績値	550
19	劇場体験ツアー	平成31年8月22日(木) ～25日(日)	[出演者]さいたまネクスト・シアター [スタッフ]彩の国さいたま芸術劇場 技術スタッフ	目標値	360
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	355
20	バリアフリーセミナー	-	新型コロナウイルスの影響により中止	目標値	120
		-		実績値	-
21	ゴールド・アーツ・クラブ	平成31年11月3日(日・祝) ～12月22日(日)	[出演者]ゴールド・アーツ・クラブ 他 [スタッフ]脚本・演出：ノゾエ征爾 他	目標値	600
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 他		実績値	724

(4) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程		概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			目標値	実績値
1	彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾『ヘンリー五世』	平成31年2月8日(金)～24日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]松坂桃李、吉田鋼太郎 他 [スタッフ]演出:吉田鋼太郎 作:W. シェイクスピア 翻訳:松岡和子 他	目標値	12,000
					実績値	14,958
2	さいたまゴールド・シアター	平成30年5月10日(木)～20日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)	[出演者]さいたまゴールド・シアター・ユニット [スタッフ]構成・演出:岩井秀人 他	目標値	1,300
					実績値	1,207
3	コンドルズ埼玉公演 2018 新作	平成30年5月20日(土)・21日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]コンドルズ(16人) [スタッフ]構成・映像・振付:近藤良平 他	目標値	1,753
					実績値	1,880
4	イスラエル・ガルバン『黄金時代』	平成30年10月27日(土)・28日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]イスラエル・ガルバン ヴォーカル:ダビ・ラゴス ギター:アルフレッド・ラゴス [スタッフ]振付:イスラエル・ガルバン 他	目標値	1,140
					実績値	907
5	フィリップ・ドゥクフレ/DCA『新作短編集(2017)－Nouvelles Pièces Courtes』	平成30年6月29日(金)～7月1日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]カンパニーDCA [スタッフ]演出・振付:フィリップ・ドゥクフレ 他	目標値	1,711
					実績値	1,449
6	彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画「次代へ伝えたい名曲」(第13回、第14回)	平成30年5月12日(土)・平成31年2月24日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール	[出演者(第13回)]荒井英治、戸澤哲夫(ヴァイオリン)、小野富士(ヴィオラ)、藤森亮一(チェロ) [出演者(第14回)]清水和音	目標値	906
					実績値	678
7	バッハ・コレギウム・ジャパン J.S.バッハ《クリスマス・オラトリオ》	平成30年11月24日(土)	彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール	[出演者]鈴木雅明(指揮)、ハナ・ブラシコヴァ(ソプラノ)、クリント・ファン・デア・リンデ(アルト)、ザッカーリー・ワイルダー(テノール)、クリスティアン・イムラー(バス)、バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱&管弦楽)	目標値	483
					実績値	581
8	さいたまネクスト・シアター	平成30年6月23日(土)～7月1日(日) 他	彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)	[演目]『ジハード—Djihad—』『第三世代』 [出演者]さいたまネクスト・シアター 他	目標値	1,950
					実績値	2,032
9	人材育成事業	平成30年8月1日(水)～11日(土)	彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)	講師:湯浅永麻、小夙健太	目標値	20
					実績値	25
10	彩の国さいたま寄席～四季彩亭	平成30年4月14日(土) 他	彩の国さいたま芸術劇場 小ホール	[出演者]林家正蔵、入船亭扇好、古今亭文菊、林家たま平、春風亭昇りん 他	目標値	1,100
					実績値	1,228
11	ピアノ・エトワール・シリーズ (Vol.34-36)	平成30年6月10日(日) 他	彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール	[出演者 (Vol.34)]シャルル・リシャール＝アムラン [出演者 (Vol.35)]ダニエル・シュー [出演者 (Vol.36)]レミ・ジュニエ	目標値	1,359
					実績値	1,390
12	舞台技術講座	平成30年8月8日(水)～平成31年3月27日(水)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 他	講師:当劇場技術スタッフおよび外部講師	目標値	200
					実績値	80

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
13	大学等との連携（インターシップ、講師派遣）	通年	講師：当財団職員	目標値	40
		彩の国さいたま芸術劇場 他		実績値	50
14	MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！	平成30年10月12日(金) ～平成31年2月8日(金)	[出演者]金管五重奏 他	目標値	300
		久喜市立鷺宮小学校 他		実績値	284
15	光の庭プロムナード・コンサート（第99回～第105回）	平成30年5月19日(土) ～平成31年3月23日(土)	[出演者]徳岡めぐみ（オルガン）&片岡詩乃（ハープ） 他	目標値	1,500
		彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ		実績値	2,110
16	みんなのオルガン講座	平成30年8月26日(日) ～平成31年3月10日(日)	講師：大塚直哉、大木麻理	目標値	80
		彩の国さいたま芸術劇場 大練習室 他		実績値	192
17	大塚直哉レクチャー・コンサート&オルガン・レクチャー（演奏付）	平成30年9月2日(日)・ 平成31年1月20日(日)	[出演者]大塚直哉（オルガン、チェンバロ、お話、講師）、島田真千子（ヴァイオリン）	目標値	224
		彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール 他		実績値	639
18	MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！	平成30年11月1日(木) ～平成31年2月15日(金)	講師：北村明子（ダンサー・振付家）、藤田善宏（ダンサー・振付家）	目標値	80
		埼玉県戸田市立美笹中学校 他		実績値	376
19	日本昔ばなしのダンス	平成31年2月23日(土)・ 24日(日)	[出演者(つるのおんがえし)]稲村はる、宮内愛、山口夏絵 [出演者(かさじぞう/てんぐのかくれみの)]鎌倉道彦、藤田善宏、山本光二郎、近藤良平 [スタッフ]演出・振付：近藤良平、山口夏絵 他	目標値	512
		彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)		実績値	672
20	新作児童演劇公演	平成30年4月29日(日) ～5月6日(日) 他	[演目]めにみえない みみにしたい [出演者]伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子 [スタッフ]作・演出：藤田貴大 他	目標値	1,080
		彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 他		実績値	1,383
21	劇場体験ツアー	平成30年12月23日(日) ～26日(水)	[出演者]さいたまネクスト・シアター [スタッフ]彩の国さいたま芸術劇場 技術スタッフ	目標値	240
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	337
22	ゴールド・アーツ・クラブ	平成30年7月31日(火) ～10月8日(月・祝)	[演目]病は気から [出演者]ゴールド・アーツ・クラブ 他 [スタッフ]脚本・演出：ノゾエ征爾 他	目標値	500
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	782
23	世界ゴールド祭	平成30年9月24日(月・祝) ～10月8日(月・祝)	[実施内容] (1)海外の高齢者カンパニーによる公演 (2)さいたまゴールド・シアター共同制作公演 (3)シンポジウム (4)ワークショップ 他	目標値	2,000
		彩の国さいたま芸術劇場 他		実績値	5,898

2. 自己評価

(1) 妥当性 (平成30～令和2年度 3か年分)

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が実施できたか。

○当劇場は「創造・発信」「人材養成・普及啓発」「芸術文化活動への支援」「社会包摂」の4つを劇場の役割と位置づけ、これらを複合的に推進しながら「芸術文化による心豊かな生活と活力ある地域社会づくりを実現する」「我が国の芸術文化の水準向上と持続的な発展に寄与する」という2つのミッションの達成(=アウトカム)に挑戦している。

※1. 事業概要／(1) 事業計画の概要／全体図(概念図)を参照

平成30年度

○事業計画の初年度となる平成30年度は、軽微な変更はあるものの、概ね予定どおり事業を実施することができ、アウトカムの発現に向けて順調に進められたと自己評価する。

平成31年度

○新型コロナウイルス感染症の拡大防止にかかる国および埼玉県からの要請を受け、2月28日以降に予定されていたすべての自主事業をやむを得ず中止することとなり、助成対象事業についても「彩の国シェイクスピア・シリーズ第35弾『ヘンリー八世』」など7事業11公演を中止とした。ただし、その他の事業については概ね予定どおり実施することができており、事業計画全体に齟齬は生じていないと自己評価する。

令和2年度

○最終年度となる令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2度の緊急事態宣言が発令され、国および埼玉県からの要請を受けて長期にわたり劇場の臨時休館や開館時間の短縮を余儀なくされた。事業を行う際もガイドラインに則した感染拡大防止策を講じることが求められ、その時々々の感染状況によって作品創造や海外招聘、高齢者を対象とした事業等は実施が困難となり、また貸し館事業では利用のキャンセルや延期が相次いだ。このため事業計画全体に非常に大きな変更が生じ、助成対象事業では、全22事業のうち8事業を中止、11事業を一部中止または日程変更、1事業をオンラインプログラムに内容変更することとなった。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

公演事業

○平成30年度

蜷川レガシーの継承として、「彩の国シェイクスピア・シリーズ」二代目芸術監督の吉田鋼太郎の演出・出演による歴史劇『ヘンリー五世』を上演した。シリーズを継続的に発展させることで観客層のさらなる拡大を図った。さいたまゴールド・シアターは番外公演として、岩井秀人の構成・演出による『ワレワレのモロモロ ゴールド・シアター2018春』を上演。高齢者による舞台表現の新たな可能性を示した。ダンスでは、毎年恒例のコンドルズによる新作公演のほか、フラメンコ界の革命児イスラエル・ガルバンによる代表作『黄金時代』とフィリップ・ドゥクフレとカンパニーDCAによる最新作『新作短編集(2017) -Nouvelles Pieces Courtes』の2作品を招聘し、我が国の舞台芸術の知的水準の向上に資することができた。音楽では、彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画「次代へ伝えたい名曲」の第13回、第14回を開催。日本を代表するトップ・アーティストが、次の世代へ受

け継ぎたい名曲を厳選してプログラムを組み、演奏することにより、まとまりのある質の高い演奏会を提供することができた。そのほか日本が世界に誇る古楽アンサンブル「バッハ・コレギウム・ジャパン」による公演を行った。

○平成 31 年度

「彩の国シェイクスピア・シリーズ」では、歴史劇『ヘンリー八世』を上演。同シリーズを継続的に実施することで観客層のさらなる拡大を図ることができた。また、蜷川氏の体調不良により上演延期となっていた未発表作品『蜷の綿-Nina's Cotton-』（作：藤田貴大）を蜷川氏が創設した2つの演劇集団さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアターによるリーディング公演として上演したほか、気鋭の若手劇作家・演出家の藤田貴大による新作『CITY』を創作・上演し、若者を中心とした新しい観客層の開拓を図ることができた。ダンスでは毎年恒例となっているコンドルズの新作を創作・上演し、ダンス鑑賞者の裾野の拡大を図ったほか、ギリシャのディミトリス・パパイオアヌーによる『Great Tamer』など世界の最先端の舞台表現を紹介し、我が国の舞台芸術の知的水準の向上に資することができた。音楽では「バッハ・コレギウム・ジャパン」による公演を行った。公演前には曲目解説レクチャーを開催し、普及啓発活動にも努めた。新型コロナウイルスの影響により一部の公演事業を中止せざるを得なかった。

○令和 2 年度

彩の国シェイクスピア・シリーズ第 36 弾『ジョン王』やさいたまゴールド・シアター第 8 回公演『聖地』など当劇場で新たに創作する予定だった作品は感染状況等に鑑みて公演中止することとした。また、世界的な感染拡大を受けた渡航制限などの影響により、メリル・タンカード&ナタリア・オシボワ『Two Feet』、Kronos Quartet『A Thousand Thoughts』はやむを得ず中止することとなった。このような状況の中で、毎年恒例のコンドルズによる新作公演は新作の映像作品に切り替え、インターネットを通じて多くの方にダンスの魅力を発信することができた。また、フランソワ・シェニヨー&ニノ・レーネ『不確かなロマンス—もう一人のオーランド—』は関係機関の協力を得ながら、防疫・感染症対策等入念な準備をし、当劇場を含む国内3か所でのツアー公演を実施することができた。海外招聘公演が軒並み中止となる中で、海外アーティストによる質の高い舞台芸術作品を鑑賞する貴重な機会を提供し、我が国の舞台芸術の知的水準向上に資することができた。音楽では、「バッハ・コレギウム・ジャパン」による公演を行った。古楽演奏に最もふさわしい規模の会場で、高品質な芸術体験の機会を提供することができた。

人材養成事業

○平成 30 年度～令和 2 年度（複数年継続事業）

若手演劇集団さいたまネクスト・シアターでは、平成 30 年度より新シリーズ「世界最前線の演劇」をスタートし、3 作を創作・上演した。世界の優れた現代戯曲に気鋭の演出家と取り組むことで、俳優としてさらなる演技力の向上を図った。人材育成事業として平成 30 年度に立ち上げた「さいたまダンス・ラボラトリ」では、海外の第一線で活躍する現役ダンサーの湯浅永麻、小尻健太を講師に迎えて集中ワークショップを実施し、次代を担うダンサーの育成に資することができた。「彩の国さいたま寄席～四季彩亭」、「ピアノ・エトワール・シリーズ」ではそれぞれ若手落語家、若手ピアニストのステップアップの場を当劇場が担い、次世代が活躍できる土壌作りに寄与した。そのほか高校生や大学生を対象に「舞台技術講座」や「大学等との連携（インターンシップ、講師派遣）」を実施し、将来アートマネジメントや舞台芸術を担う人材の育成にも貢献することができた。

普及啓発事業

○平成 30 年度～令和 2 年度（複数年継続事業）

県内小・中学校へのアウトリーチ事業として「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる!」「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる!」を実施し、県内における芸術鑑賞機会の地域格差の是正や中学校におけるダンス教育の質の向上に資することができた。また、劇場所有の移動式のパイプオルガンを使って、「みんなのオルガン講座」やレクチャー付き演奏会「大塚直哉レクチャー・コンサート」を開催した。一流の講師による講座や演奏会を通じて、楽器の魅力やオルガン音楽・バロック音楽の楽しさ、奥深さを伝えることができた。「劇場体験ツアー」や「劇場見学ツアー」では地域の小学生とその保護者を対象にバックステージツアーを行い、劇場や舞台芸術に対する関心・理解を深めるきっかけをつくることができた。

社会包摂事業

○平成 30 年度

60 歳以上を対象とした芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」では、モリエールの『病は気から』をテキストにノゾエ征爾の脚本・演出による初の本格的な演劇公演を行った。クラブ登録者の中から出演者を募り（738 名が参加）、できるだけ多くのシニア世代の方に表現の場や同世代の交流の場をつくとともに、高齢社会における舞台芸術の可能性を追求した。また、高齢者の舞台芸術にフォーカスした国際舞台芸術祭「世界ゴールド祭」を初開催した。高齢者の芸術参加に活発に取り組んでいる 3 カ国の先進的な取り組みを紹介し、高齢者の多様な芸術との関わり方、高齢者による芸術表現の可能性を示した。また、国内外の高齢者同士、アーティストや舞台芸術関係者といった専門家による知見の交換、さらには芸術、福祉、医療、行政等の異なるセクターの相互交流を促し、社会における芸術文化の役割や将来的な協働の可能性を探った。本事業では英語および多言語での上演演目については字幕表示を行い、また配布プログラム等でバイリンガル表記を採用するなど、鑑賞者の理解を高めるための対応も行った。

○平成 31 年度

「ゴールド・アーツ・クラブ」ではノゾエ征爾による演劇ワークショップと成果発表を行った。身体表現による新しい自己実現の在り方を模索するとともに、集団創作を通じて同世代の仲間づくりを促し、高齢者を孤立させない社会づくりに貢献することができた。

○令和 2 年度

「ゴールド・アーツ・クラブ」、「世界ゴールド祭」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けてやむを得ず中止することとしたが、平成 31 年度から「世界ゴールド祭」に向けて準備を進めていた「パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム」は、対面から Zoom を使ったオンライン・クラスに切り替えて事業を継続した。対面では近隣 5 都県から 1 回平均約 20 名が参加していたところ、オンラインでは 24 都府県から 1 回平均約 46 名が参加。外出自粛が求められる社会状況にあって、より多くの方に自宅にいながらダンスを楽しめる機会を提供することができた。高齢者を対象とした事業や社会包摂事業については、これまでの実績を踏まえて今後の取り組みについて改めて検討し、次年度以降の事業展開に反映させていきたいと考えている。

○以上の取り組みには助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められると自己評価する。

(2) 有効性 (平成30～令和2年度 3か年分)

自己評価

目標を達成し、アウトカムが発現したか。

○本事業計画ではアウトカムの発現を目的に7つの目標と8つの指標を定めた。芸術文化の領域ではその性質上、事業実施による成果を短期間で数値的に表すことが困難である。また、当劇場は唯一の県立劇場であることから、一部の地域だけでなく県全体で効果を測るという観点から、県が作成した「埼玉県文化芸術振興計画 2016-2020」における指標や全県調査等複数年に渡る変化を観察できる指標を引用し、それらの指標を参照することで3年間の事業計画の成果を計測する考えである。

○本事業計画では「蜷川レガシーの継承」と「社会包摂機能の強化」に主眼を置いている。「蜷川レガシーの継承」として「彩の国シェイクスピア・シリーズ」をはじめとした創造・発信を柱としながら、世界の先鋭的なダンス作品の招聘公演や人材養成事業、普及啓発事業など複合的なプログラムを展開することにより、我が国の芸術文化水準の向上と裾野の拡大に寄与できると考えている。

裾野の拡大という観点では、「彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾『ヘンリー五世』」(平成30年度)、「彩の国さいたま芸術劇場×マームとジプシー『CITY』」「ディミトリス・パパイオアヌ『Great Tamer』」「彩の国シェイクスピア・シリーズ第35弾『ヘンリー八世』」(平成31年度)といった事業において、来場者アンケートの集計結果からおよそ30%~40%の方が「今回初めて当劇場で鑑賞した」と答えており、新たな鑑賞者層の開拓にも成果をあげていると自己評価する。

○「社会包摂機能の強化」を図る事業としては、「世界ゴールド祭」を平成30年度に初開催した。マスメディアにも多数取り上げられ、参加者数2,000人以上という目標を大きく上回る5,898人が参加し、国内外の高齢者による舞台表現を通して、社会の高齢化の在り方や舞台芸術の可能性について考えるきっかけをつくることができた。

また、60歳以上の会員約1,000人を擁する「ゴールド・アーツ・クラブ」では、平成30年度に738名が参加してノゾエ征爾の脚本・演出による第1回公演を行い、翌平成31年度には724名が参加して演劇ワークショップと成果発表を行った。参加者アンケートによると、満足度はそれぞれ98.0%(平成30年度)、96.8%(平成31年度)という高い結果を得られた。また、参加してよかった理由として、「達成感があった」のほかに、「生活の張り合い(意欲・目標)ができた」や「新しい友達(仲間)ができた」といった演劇を楽しむこと以外の部分で充足感を得られていることもわかった。こうした効果をより科学的見地から客観的に裏付けるため、平成31年度から東北大学との共同研究にも取り組み始めた。平成31年度の共同研究成果報告の結論は「成果発表に向けた1ヶ月間のアーツクラブ活動によって、高齢者(特に女性)のメンタルヘルスが向上することが明らかとなった。うつ病の既往や慢性的なストレスは認知症の危険因子であると言われている。本研究の結果から、芸術に主体的に取り組むことは高齢者のwell-beingの向上を介して認知症予防に貢献する可能性が示唆される」というものである。

埼玉県は全国で最も早いスピードで高齢化が進んでいるが、芸術文化活動を通じてシニア世代の活力や創造性が豊かになることで、地域が活性化し、ひいては地域コミュニティの強化・再生にも効果が及ぶものと考えている。

○各指標に対する自己評価は以下のとおりである。なお、令和2年度の数値に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく変動することが考えられるため、参考値として平成31年度の数値も併記している。

1. 芸術文化活動を鑑賞している県民の割合

計画策定時	参考値	最新値	目標値
平成27年度	平成31年度	令和2年度	
56.3%	55.9%	41.8%	65.0%

平成31年度は計画策定時の値からほぼ横ばいであるが、令和2年度は前年度より14.1ポイント減少し、目標値を大きく下回る結果となった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるイベント中止や外出自粛の影響が表れていると考えられる。

2. 芸術文化活動を行っている県民の割合

計画策定時	参考値	最新値	目標値
平成27年度	平成31年度	令和2年度	
26.4%	32.3%	24.9%	33.0%

平成31年度は計画策定時の値を5.9ポイント上回り、目標値に近い水準であったが、令和2年度は前年度より7.4ポイント減少し、目標値には及ばなかった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるイベント中止や外出自粛の影響が表れていると考えられる。

3. 県民の芸術文化活動の機会や環境の満足度

計画策定時	参考値	最新値	目標値
平成28年度	平成31年度	令和2年度	
満足している37.8%	満足している37.9%	満足している24.9%	満足している40.0%

平成31年度は計画策定時の値からほぼ横ばいであるが、令和2年度は前年度より13.0ポイント減少し、目標値を大きく下回る結果となった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるイベント中止や外出自粛の影響が表れていると考えられる。

ただし、当劇場における自主事業の公演満足度は高い水準を達成している。

【参考データ】公演満足度

(平成29年度) 98.5% → (平成30年度) 98.5% → (平成31年度) 98.6% → (令和2年度) 98.0%

4. 演劇・ダンス・音楽等を趣味・娯楽として親しむ県民数

10歳～64歳		65歳以上	
計画策定時	目標値	計画策定時	目標値
平成28年度	令和3年度	平成28年度	令和3年度
3,139千人	3,233千人	969千人	1,017千人

最新値は次回調査(令和3年)で算出されるため、データなし。

5. 埼玉県健康寿命

計画策定時		最新値		目標値	
平成 26 年		平成 31 年		令和 3 年	
男性	女性	男性	女性	男性	女性
16.96 年	19.84 年	17.73 年	20.58 年	17.63 年	20.26 年

最新値は県の調査の関係から平成 31 年のものとなっているが、男性、女性ともに目標値に達している。

6. 埼玉県、さいたま市の観光入込客数

埼玉県			さいたま市		
計画策定時	最新値	目標値	計画策定時	最新値	目標値
平成 28 年度	平成 31 年度	令和 2 年度	平成 28 年度	平成 31 年度	令和 2 年度
158,085 千人	164,583 千人	173,893 千人	24,006 千人	25,608 千人	26,406 千人

最新値（平成 31 年度）は埼玉県、さいたま市ともに計画策定時よりも増加が見られ、アウトカムの発現に向けて順調に前進している。

7. 将来就きたい職業（埼玉県）

計画策定時		目標値	
平成 28 年度		令和 3 年度	
音楽家などの芸術家	俳優など	音楽家などの芸術家	俳優など
8.6%	1.9%	10.0%	3.0%

最新値は次回調査（令和 3 年）で算出されるため、データなし。

8. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への県民の関心度

計画策定時	参考値	最新値	目標値
平成 28 年度	平成 31 年度	令和 2 年度	
関心が高い 55.9%	関心が高い 64.6%	関心が高い 59.7%	関心が高い 70%

最新値（令和 2 年度）は計画策定時より 3.8 ポイント増加したものの、前年度より 4.9 ポイント減少した。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会における埼玉県の文化プログラムとして令和 2 年度に予定していた「ゴールド・アーツ・クラブ」、「世界ゴールド祭」は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。また、オリンピック・パラリンピックの開催自体が 1 年延期になるなど社会状況の変化も影響していると考えられる。

○事業計画の最終年度に新型コロナウイルス感染症の感染拡大が重なってしまったことや、県による指標の調査時期の関係で、計画策定時に設けた 8 つの指標の中で目標値を達成できたのが 1 項目のみにとどまった。しかしながら、助成対象事業に関する来場者アンケートや参加者アンケート、専門家の評価等からは事業実施による一定の成果が見られ、「人々の心豊かな生活の実現」「地域の活性化とコミュニティの強化・再生」「芸術文化の水準向上」「芸術文化の裾野の拡大」といったアウトカムの発現が確認できると自己評価する。なお、令和 3 年度以降の新しい事業計画では、年次で確認できる指標を設定するなど有効性の把握に一層努めたいと考えている。

(3) 効率性 (平成30～令和2年度 3か年分)

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

平成30年度

○入場者数・参加者数は目標の30,478人に対して、実績は39,094人と大きく上回る結果となった。「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は当初19回公演で12,687人の入場者を見込んでいたが、チケット販売が好調であったことから追加公演を行い、最終的な入場者数は14,958人であった。また、「世界ゴールド祭」は芸術文化を通じて社会とより積極的に関わるというコンセプトから、劇場内のみならず野外でのパフォーマンスを制作・実施した結果、普段劇場に足を運ばない県民も巻き込むことができ、2,000人以上という目標を大きく上回る5,898人が参加した。事業期間に変更はなく、当初の狙い以上のアウトプットが表れていると自己評価する。

○助成対象経費の総額は予算額315,012,000円に対して、決算額は284,463,574円であった。変更額は▲30,548,426円で、当初の予定より事業費を9.7%抑えることができた。海外招聘作品については、国内の複数の劇場と連携してツアー公演を組むことで、各館の費用負担を下げる工夫をしている。「フィリップ・ドゥクフレ／カンパニーDCA『新作短編集(2017) —Nouvelles Pièces Courtes』」は当劇場のほかに北九州芸術劇場とびわ湖ホールを巡回し、「イスラエル・ガルバン『黄金時代』」は名古屋市芸術創造センターでも公演を行った。また、「ゴールド・アーツ・クラブ」は当初500人の参加見込みに対して、59,030,000円の支出を見込んでいた。参加者を募集した結果、見込みの約1.5倍の738人が参加することとなったが、稽古の運営体制等を工夫することで舞台費等を抑えることができ、実績報告時の支出は48,810,733円であった。事業費と事業内容の質のバランスを保ちながら事業計画を進めることができたとして自己評価する。

平成31年度

○入場者数・参加者数は目標の31,732人に対して、実績は30,131人であった。新型コロナウイルス感染症の拡大防止にかかる国および埼玉県からの要請を受け、2月に公演中だった「彩の国シェイクスピア・シリーズ」では残り4公演を中止とし、約3,000枚のチケットを払い戻したことが目標未達の大きな要因になったと考えている。2月28日以降、「彩の国シェイクスピア・シリーズ」を含む7つの助成対象事業の一部または全部の公演を中止し、事業期間は実質的に1ヶ月程度短くなった。一方で、当劇場オリジナル企画である「彩の国さいたま芸術劇場×マームとジプシー『CITY』」と、初来日公演となった「ディミトリス・パパイオアヌー『Great Tamer』」では、企画内容や広報・宣伝が奏功し、それぞれ目標を1,000人以上上回る好結果を残すことができた。不測の事態が伴いながらも、目標に対して約95%の入場者・参加者を集められたことは前向きに自己評価できる。

○助成対象経費の総額は予算額285,108,000円に対して、決算額は234,900,420円であった。変更額は▲50,207,580円で、当初の見込みより17.6%減少した。新型コロナウイルス感染症の影響により公演の一部または全部が中止となった7事業のみで見ると、出演料等の助成対象経費は約40,000,000円減少しており、これが総額にも大きく影響したと考えられる。「さいたまゴールド・シアター×さいたまネクスト・シアター『蜷の綿-Nina's Cotton-』リーディング公演」や、「さいたまネクスト・シアター」公演は、いずれも俳優の身体表現に重きを置いた演出で好評を得られ、同時に舞台費を当初の想定より大幅に減らすことができた。作品の質を落とすことなく、事業費を適切に執行できたと自己評価する。

令和2年度

○入場者数・参加者数は目標の35,119人に対して、実績は4,646人であった。新型コロナウイルス感染症の影響により助成対象の22事業のうち、8事業を中止、11事業を一部中止または日程変更、1事業をオンラインプログラムに内容変更した。また、予定どおり実施できた「大塚直哉レクチャー・コンサート」でも感染症対策とし

て販売席数を減らすなどの対応を行ったため、当初の目標には届かなかった。このため事業計画全体として目標を大きく下回る結果となった。

○助成対象経費の総額は予算額 419,180,000 円に対して、決算額は 92,293,700 円であった。変更額は▲326,886,300 円で、当初の見込みより約 78%減少した。決算額のうちおよそ 50,000,000 円が公演中止に伴って生じた出演者やスタッフに対するキャンセル料である。

なお、「藤田貴大新作児童劇」については新型コロナウイルス感染症の影響により吉川公演（3 公演）が中止となり、またさいたま公演も日程や会場を変更し、さらに感染症対策として客席数を減らしたため、新たな財源を確保するために、経費の切り分けを行ったうえで、J-LODlive 補助金を申請することとした（本報告書作成時点では確定作業中）。

(4) 創造性 (平成30～令和2年度 3か年分)

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている (と認められる) か。

○平成18年より当劇場の芸術監督を務めてきた蜷川幸雄氏が平成28年6月に逝去された。以降当劇場では蜷川氏の遺したレガシーの継承を掲げ、制作グループの要であるエグゼクティブ・プロデューサーを中心に事業を展開している。

演劇部門

○「彩の国シェイクスピア・シリーズ」では吉田鋼太郎を二代目芸術監督に迎え、全戯曲37作品の完全上演に向けて、平成30年度は第34弾『ヘンリー五世』、平成31年度は第35弾『ヘンリー八世』を上演した。令和2年度は第36弾として『ジョン王』を上演予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響によりやむを得ず公演中止となった。当シリーズは、当財団の企画・制作による看板事業として国内外から高い評価を得ており、当劇場から我が国トップレベルの舞台芸術作品を創造・発信することで我が国の舞台芸術水準の向上に資することを目的としている。公演開催に合わせて、連続講座「彩の国シェイクスピア講座」や劇場内のパブリックスペースでのプレコンサート「さいたまアーツシアター・ライブ!!」、舞台写真展などの関連企画を開催することで、シェイクスピア作品への理解を深めるなど多様な楽しみ方を提示し、にぎわいの創出も図っている。

○さいたまゴールド・シアターは平成18年の結成以来、高齢社会を背景に社会的にも大きな注目を集めており、訓練されたプロの俳優とは異なり生活者のリアルを背負って舞台に立つ姿は演劇界に新しい風を吹き込んだ。平成30年度は劇団ハイバイの岩井秀人を構成・演出に迎え、自身に起きた出来事を自ら台本化し演じる「ワレワレのモロモロ」に挑戦し、冷蔵庫の買い替えといった日常的な出来事から過酷な戦争体験まで6つのエピソードを舞台化し、彼らの人生のドラマを生々しく表現した。

一方、平成21年に発足した若手演劇集団さいたまネクスト・シアターは、設立から2年目・3年目に発表した作品で2年連続読売演劇大賞の優秀作品賞を受賞するなど躍演劇界に頭角を現した。平成30年度は「世界最前線の演劇」と称する新シリーズを立ち上げ、世界の紛争地域から生まれた優れた現代劇3作品に挑戦した。演出はそれぞれ瀬戸山美咲、中津留章仁、眞鍋卓嗣が手掛け、気鋭の演出家との創作を通じて俳優としての更なるレベルアップを図るとともに、イスラエル、パレスチナ等日本にはなじみの少ない地域で生まれた現代劇を上演することで、演劇を通じた異文化理解の促進にも寄与した。なお、同シリーズで上演した『ジハード —Djihad—』(作: イスマエル・サイディ/翻訳: 田ノ口誠悟)、『朝のライラック』(翻訳: 渡辺真帆)は、小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞した。

また、「さいたまゴールド・シアター」と「さいたまネクスト・シアター」の合同公演として、『蜷の綿 -Nina's Cotton-』リーディング公演(作: 藤田貴大)を実施した。本作は、「演出家・蜷川幸雄」の半生がモチーフとなっており、平成28年2月に蜷川氏自身の演出による上演を予定していたが、氏の体調不良により公演延期となっていた。劇場の開館25周年という節目に、両劇団が蜷川氏ゆかりのスタッフとともにリーディング公演として立ち上げ、氏の功績に改めて光を当てるとともに、その足跡を通じて戦後の日本現代演劇の歴史を振り返り、次世代への継承と発展を図った。

ダンス部門

○平成30年度は平成26年、28年にも当劇場で来日公演を行ったフィリップ・ドゥクフレとカンパニーDCAによる最新作『新作短編集(2017) —Nouvelles Pièces Courtes』とフラメンコ界の革命児イスラエル・ガルバンに

よる代表作『黄金時代』を招聘し、世界のダンスシーンを牽引するアーティストによる作品の鑑賞機会を提供した。近藤良平率いるコンドルズとは平成 18 年以来継続して当劇場オリジナル作品を創作・上演しており、ダンスの鑑賞者層を拡大する取り組みにも力を入れている。また、子どもと大人と一緒に楽しめる人気ダンスシリーズ「日本昔ばなしのダンス」の新作を上演し、親子の対話の機会やダンスに対する興味を深めるきっかけづくりも提供した。

○平成 31 年度は、「コンドルズ埼玉公演 2019 新作」を上演したほか、海外招聘公演として「ディミトリス・パパイオアヌー『Great Tamer』」を上演した。アテネ五輪開閉会式の演出を手掛けたディミトリス・パパイオアヌーは、近年世界のダンス、演劇、美術シーンで注目されるアーティストであり、今回が初来日公演となった。ギリシャでの初演以来、アヴィニオンをはじめロンドン、パリ、ロサンゼルス、ソウル、台北等世界 30 都市以上で上演され、各地で高い評価を受けた本作は、ダンスファンのみならず多くの方々の注目を集め、当初予定していた 2 回公演を 3 回に増やし、目標を大きく上回る 2,000 人以上のお客様が来場した。上演後も複数の媒体で舞台評が掲載されるなど大きな反響を呼んだ。世界の最先端の舞台表現の鑑賞機会を提供することで、我が国の舞台芸術の知的水準向上に資することができた。3 月には当劇場ではおなじみのイスラエルを代表するダンスカンパニー・バットシェバ舞踊団による『VENEZUELA』を上演する予定であったが、新型コロナウイルスの影響によりやむを得ず公演中止となった。

○令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により恒例のコンドルズの新作公演とメリル・タンカード&ナタリア・オシポワ『Two Feet』の招聘公演を中止することとなった。コンドルズ公演に関しては中止にするだけでなく、代わりにリモートで映像作品を制作し、当初の公演時期に合わせて「コンドルズ埼玉新作ビデオダンス 2020『I Want To Hold Your Hand』」として財団の公式 YouTube チャンネルから発信した。通常公演時の集客数は 2,000 人弱であるのに対し、配信終了までの視聴回数は 10,577 回であった。単純に数字を比較することはできないが、長らく自粛生活の中で多くの方にダンスやコンドルズの魅力を届けることができた。内容についても YouTube 上で 98.5%の高評価率で、舞台芸術関係者からの反響も大きかった。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による入国制限がかかる中で、フランソワ・シェニヨー&ニノ・レーネ『不確かなロマンス—もう一人のオーランドー』を招聘し、当初の公演スケジュールを変更して上演することができた。フランスの俊英ダンサー・振付家のフランソワ・シェニヨーが、アーティストのニノ・レーネと共に 2017 年に初演し、その後アヴィニオン国際演劇祭をはじめ世界各地で称賛を浴びた本作は、トランスジェンダーの青年貴族が主人公のヴァージニア・ウルフの小説『オーランドー』を想起させるもので、シェニヨー自身が性を超越し、外見とアイデンティティを変容させながら見せる圧巻のソロダンスと歌唱は観客や評論家に大きな感動をもたらした。海外アーティストによる質の高い舞台芸術作品の鑑賞機会を提供し（当劇場公演後、京都、北九州公演も実施）、我が国の舞台芸術の知的水準向上に資することができた。

音楽部門

○音楽部門では、音楽ホールの音響特性を活かし、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施するとともに、気軽に足を運べる無料コンサートや参加・育成を目的とした事業もあわせて展開することで、鑑賞者のさらなる拡大を図っている。

日本が世界に誇る古楽アンサンブル「バッハ・コレギウム・ジャパン」は、平成 11 年に初登場して以来、毎年継続して公演を行なってきたり、楽団とホールがともに成長してきた経緯がある。平成 28 年度からは提携契約を結び、公演前の関連企画（曲目解説レクチャー等）を行うなど普及啓発活動にも努めている。また、平成

30年度は5年目を迎えたリサイタル・シリーズ「次代へ伝えたい名曲」の第13回、第14回を実施し、出演者による関連レクチャーや公開レッスンを行うなど、次世代の育成に資するべく内容の充実を図った。本格的なクラシック音楽をさいたまで楽しめる機会を提供するとともに、世界的に評価される著名アーティストが演奏する音楽の殿堂として、当劇場の素晴らしさを国内外に発信した。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながった（と認められる）か。

○平成 30 年度に初開催した「世界ゴールド祭」は高齢者による舞台芸術にフォーカスした世界的に見ても珍しい国際芸術祭であるが、新聞・雑誌 44 件、ウェブ 27 件、テレビ 4 件と多くのマスメディアに取り上げていただき、県内のみならず全国的に広報することができた。また、「ゴールド・アーツ・クラブ」の活動を追ったドキュメンタリー番組（NHK-BS1）が国際放送されたり、海外からの「世界ゴールド祭」参加者の SNS 等を通じて国外に向けても発信することができた。来場者アンケートでは、内容について「大変満足」「まあ満足」の回答が約 97%に達し、高い評価が得られた。参加者の年齢が 60 歳以下と 60 歳以上が約半数ずつを占め、高齢者を支える世代からの関心の高さも強く感じられた。「古い」をこれまでとは異なる目線でポジティブに捉えることができたという感想も多く得られ、高齢者の生きがいづくりや高齢者同士の共感醸成のみならず、高齢者を支える人々やこれから老いていく人々の意識を変容させ、高齢社会に向き合う機会を提供できた。

○さいたまゴールド・シアターは平成 18 年に 1,200 名以上の応募者の中からオーディションを経て選ばれた 48 名で発足。団塊の世代の大量退職を背景に、劇団は結成当初から社会的な話題となった。劇団員のほとんどが演劇経験のないメンバーにより構成されているが、初年度から「Pro・cess」と称した中間発表公演を実施し、平成 19 年に岩松了の書き下ろし作品『船上のピクニック』で旗揚げ公演を行った。平成 25 年にはパリ日本文化会館からの招請を受け、初の海外公演に挑戦し、唯一無二のパフォーマンスは現地の目の肥えた観客からも絶賛された。さらに翌年には香港、パリ、日本国内 3 か所を巡るツアー公演を成功させた。一連の活動を通じて、さいたまゴールド・シアターは高齢者劇団のモデルケースとして全国的に認知され、海外のプレゼンターにも一目置かれる劇団となっており、劇場の認知度や評価の向上にもつながっていると考えられる。県内では、吉川市でさいたまゴールド・シアターをモデルに平成 29 年から市独自の演劇プロジェクトがスタートし、市民参加型の演劇公演を年に 1 回行っており、当劇場が舞台技術等のサポートを行っている。平成 30 年度は神奈川県舞台芸術関連事業「共生共創事業～ともに生きる ともに創る～」の開始記念公演としてさいたまゴールド・シアターが招聘され、県民共済みらいホールにて岩井秀人構成・演出による『ワレワレのモロモロ ゴールド・シアター 2018 春』の改訂版を上演した。

○当劇場では開館以来、ピナ・バウシュ、ネザーランド・ダンス・シアター、ラララ・ヒューマン・ステップス、ローザス等世界の最先端のダンスをいち早く紹介してきた。「ダンスのさいたま」は当劇場のもう一つの顔であり、これまでに県内のみならず県外からも多くのお客様にご来場いただいている。たとえば、バットシェバ舞踊団は平成 9 年の初来日以来、継続して当劇場で公演を実施し、観客数が増えてきたという経緯がある。こうした実績を積み重ねることが、海外における当劇場の認知度向上や劇場スタッフのスキルアップにつながり、海外の有名カンパニーを招聘しやすくなると考えられる。引き続きダンス専門のプロデューサーを中心として当劇場ならではのプログラムを提供し、我が国のダンス界を牽引する事業を展開していきたいと考えている。

(5) 持続性 (平成30～令和2年度 3か年分)

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する(と認められる)か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

経営・組織・人事

○劇場の組織活動を支えるのは何よりも人材であることから、当劇場の指定管理者である当財団では平成28年4月1日で対象となる有期契約職員のうち無期契約への転換を希望した全員を無期契約化した。雇用の安定化を図ることで、組織活動を持続的に発展する基盤ができたと考える。

○平成16年から16年間当財団の理事長を務めた竹内文則氏が退任し、令和2年6月10日付で加藤容一新理事長が就任した。コロナ禍にあつて財団・劇場がどのような方向を目指すべきかを再確認し、今後の事業計画に反映するため全職員を対象に意見交換やアイデア募集を行い、「目指すべき方向性とその実現手法」として指針を取りまとめた。浮かび上がってきた課題や取り組むべき事業案については、既存の組織上の枠組みを取り払ってプロジェクトチームをつくり、チームごとに調査・検討を進めて令和3年度以降の事業計画に反映させていく。

○平成28年5月に蜷川幸雄氏が逝去され、芸術監督が不在となっていたが、令和4年4月から近藤良平氏が芸術監督に就任することが決まり、令和3年4月から次期芸術監督として新たなプログラムの準備に入っている。これまで現代音楽家の諸井誠氏、演出家の蜷川幸雄氏を芸術監督に起用し、世界のトップ・アーティストの招聘や日本人アーティストによる質の高い創造・発信事業を中心にラインナップを組み立ててきたが、開館から四半世紀が経ち、少子高齢化が加速的に進む社会の中で、公共劇場の役割は大きく変わろうとしている。「創造・発信」の重要性は変わらないものの、劇場が市民のためにもっと開かれた「広場」であることが求められている。こうした流れを受けて、ダンスカンパニー「コンドルズ」として当劇場で毎年新作を発表し、障がい者ダンスチーム「ハンドルズ」や全国で市民参加型の芸術文化イベントをプロデュースするなど多方面で活動を行っている近藤氏に芸術監督を委嘱することとなった。近藤氏とは意見交換を重ねており、「多様な人々が行き交うオールインクルーシブな劇場」という新たな方針に向けて今後取り組むべき事業の検討を始めている。

○当財団では指定管理者制度に基づき、組織活動全般について定期的にモニタリングを行い、課題把握と対応策の立案・実施に努めている。四半期および年度終了後には、施策や業務の達成状況を自己評価し、その結果を次年度にフィードバックしており、こうしたPDCAを繰り返し回すことで、劇場の機能強化を図っていくことができるものと考えている。

財源の確保

○当財団は埼玉県の100%出資による公益財団法人であり、劇場の事業費の原資となっているのは指定管理料であるが、事業の安定的な運営のために民間助成金や協賛金等外部資金の獲得に努めている。特に社会包摂事業はその性質上大きな収入が期待できないため、「世界ゴールド祭」(平成30年度)、「ゴールド・アーツ・クラブ」(平成30・31年度)については複数の民間助成金を活用することで、費用負担を減らしつつ事業内容の充実を図った。

また、当劇場は118社(令和3年3月現在)あるサポーター企業からの協賛金(年会費:1口10万円)にも支えられており、年に1回鑑賞会および懇談会の場を設け、当劇場の取り組みに対する理解を深めていただくとともに、コミュニケーションを図っている(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止)。

他の劇場・音楽堂等および教育機関とのネットワーク

○組織活動の持続的な発展には他の劇場・音楽堂等とのネットワークも重要であると考えている。平成 30 年度に創作初演した演劇『めにみえない みみにしたい』は、翌年北海道から沖縄まで全国 14 か所を巡るツアー公演を実施し、4,116 人を動員した。各地域で鑑賞機会を増やすだけでなく、ツアー公演を支援するための助成金が獲得できるといった経済的なメリットもある。また、「フィリップ・ドゥクフレ/DCA『新作短編集（2017）－Nouvelles Pièces Courtes』」（平成 30 年度）や「ディミトリス・パパイオアヌー『Great Tamer』」（平成 31 年度）、フランソワ・シェニヨール&ニノ・レーネ『不確かなロマンス－もう一人のオーランドー』（令和 2 年度）等のダンス公演では、国内の劇場と連携しツアー公演を組むことで、海外からの招聘に係る経費や広報・宣伝費等を按分することで各館の負担を軽減することができる。

県内では、平成 28 年から吉川市、平成 30 年から東松山市の芸術文化事業に対する支援を行っており、拠点劇場として地域における芸術文化の裾野の拡大にも貢献している。

○教育機関とのネットワークとして、平成 13 年度より地域におけるアートマネージャー等の人材養成を図るため、地元埼玉大学と連携してアートマネジメント講座を開講している。本講座はインターンシップへの導入講座としても位置付けられており、関心を持った学生は当劇場の制作業務を実践的に経験することができる。また、当劇場では、埼玉大学をはじめ日本女子体育大学、跡見学園女子大学等からインターンシップ生を年間 10 名程度受け入れているが、実際に舞台芸術の現場で活躍する修了生を数多く輩出しており、人材育成面で着実に成果をあげている（令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れ実績なし）。

○当劇場が取り組む高齢者を対象とした事業（ゴールド・アーツ・クラブ）の効果を調査・分析し、成果を定量化するため、東北大学医学部加齢医学研究所（スマートエイジング学際重点研究センター）との共同研究を実施。超高齢社会という社会課題に応答する当劇場の取り組みへの周囲の理解を深めることができると考えている（令和 2 年度はゴールド・アーツ・クラブ公演の中止に伴い中止し、平成 31 年度の調査分の分析を実施。論文発表は次年度へ繰り越し）。